

マテリアリティ・特定プロセス

太平洋工業グループは、企業としての価値観やビジョンを実現し、SDGs(持続可能な開発目標)を達成するため、2020年に2030年を目安としたサステナビリティに関する当社グループの重要課題(マテリアリティ)を抽出し、4つの柱となるテーマと、15のマテリアリティ、注力するSDGsテーマを特定しました。2025年に、環境変化やグローバルで進むサステナビリティ開示基準の要請などを踏まえ、マテリアリティを改定しました。

マテリアリティの 特定プロセス [詳細はWEBで]

1. 考え方と前提条件の設定

前提条件として以下を踏まえ、評価プロセスを策定し特定を進めました。

- サステナビリティに関するテーマ
- 概ね2035年までの10年を念頭に置く
- グローバルおよびバリューチェーンでの重要性を含め検討

2. インパクト・リスク・機会の観点で重要性を評価

当社事業が、社会・環境に与える影響(インパクト)と、社会・環境が当社の企業価値・財務に与える影響(リスク・機会)の2つの観点で、バリューチェーンでの影響度を分析しました。

その際、気候変動のリスクと機会はTCFD、環境面のインパクト、環境面全体のインパクト・依存、リスク・機会はTNFDを参考に、簡易的な自然資本評価を実施、また社会へのインパクトは人権リスク評価を踏まえ、統合的に評価を行いました。

3. マトリックスをベースに、妥当性を再検討

マテリアリティは、テーマ別に影響度と可能性を評価し、インパクト面とリスク・機会面でそれぞれ影響度と可能性に分けて評価を行い、閾値以上になったものをベースに特定しました。

各種グローバル基準、国内外の顧客からの要請、自動車部品メーカーのマテリアリティ、および技術開発部門との意見交換などを踏まえてマテリアリティを多角的に検証。その結果、マテリアリティ候補で、基準・顧客要請、他社比較で、足りないと思われるテーマはありませんでした。当社の独自性の高いテーマが複数ありますが、いずれも当社にとって重要と考えられると結論づけました。

4. 第三者意見を経て、最終検討し、取締役会にて決定

サステナビリティ経営に関する高い知見と、マテリアリティ評価助言に関する多くの実績、当社の前回のマテリアリティ評価への第三者意見、当社小川信也会長(当時社長)との対談などの当社への理解の深さなどから、政策研究大学院大学教授の竹ヶ原啓介氏に、当社マテリアリティを評価いただきました。マテリアリティ特定の詳細や第三者意見全文は当社Webサイトに掲載しています。

<https://www.pacific-ind.co.jp/sustainability/management/>



マテリアリティ

当社グループは、15のマテリアリティを特定し、それらを4つの柱に区分しています。中長期経営構想「Beyond the OCEAN」では、非財務価値の経営目標を定めましたが、経営目標はこのマテリアリティを踏まえて、関連する指標を採用しています。

ステークホルダーとの信頼醸成

- ・企業倫理・コンプライアンス
- ・顧客満足度の向上
- ・責任ある調達
- ・地域社会の発展

特に関連するSDGs



事業を通じた社会課題の解決

- ・持続可能なモビリティ社会と豊かな暮らしへの貢献
- ・モビリティの安全性向上
- ・環境配慮製品の開発

【経営目標】新規商品・サービス上市件数

【経営目標】電動車向け売上比率

特に関連するSDGs



自然共生社会の実現

- ・気候変動の緩和および適応
- ・持続可能な資源の利用
- ・水・自然の保全

【経営目標】CO₂排出量

特に関連するSDGs



人財の活躍・人権の尊重

- ・従業員エンゲージメント
- ・安心して活躍できる職場づくり
- ・従業員の安全と健康
- ・人材育成と挑戦できる風土の醸成
- ・ダイバーシティ&インクルージョン

【経営目標】従業員エンゲージメント

特に関連するSDGs

